

サマリア人のいやし

ルカ17章11-19

イエスはエルサレムへ上る途中、サマリアとガリラヤの間を通られた。ある村に入ると、重い皮膚病を患っている十人の人が出迎え、遠くの方に立ち止まったまま、声を張り上げて、「イエスさま、先生、どうか、わたしたちを憐れんでください」と言った。イエスは重い皮膚病を患っている人たちを見て、「祭司たちのところに行って、体を見せなさい」と言われた。彼らは、そこへ行く途中で清くされた。その中の一人は、自分がいやされたのを知って、大声で神を賛美しながら戻って来た。そして、イエスの足もとにひれ伏して感謝した。この人はサマリア人だった。そこで、イエスは言われた。

「清くされたのは十人ではなかったか。ほかの九人はどこにいるのか。この外国人のほかに、神を賛美するために戻って来た者はいないのか。」それから、イエスはその人に言われた。「立ち上がって、行きなさい。あなたの信仰があなたを救った。」

説教

百人隊長はイエスの言葉があれば僕は「いやされる」と信じ（マタ8:8、ルカ7:7）イエスの服に触れた女は病気が「いやされた」ことを感じました（マコ5:29、マタイ9:28、ルカ8:44）。イエスの教えを聞くため、また病気を「いやしていただくために」人々は集まり（ルカ6:18）、十二人は神の国を宣べ伝え、病気を「いやす」ために遣わされます（ルカ9:2）。今週の朗読に登場するサマリア人は、イエスに神の力を見て、神の国に触れた一人です。

ところで、わざと誤った答えを選ばせるように仕組んだ問いを「ひっかけ問題」といいます。学校のテストでひっかかった人も大勢いるとおもいます。さらっと読むといやされた「ほかの9人」はイエスのひっかけ問題にひっかかったようにみえます。

イエスは重い皮膚病を患っている人たちを見て、「祭司たちのところに行って、体を見せなさい」と言われた。彼らは、そこへ行く途中で清くされた。ルカ 7:14

「祭司たちのところへ行って体を見せよ」イエスはこう命じて、らい病を患っている 10 人は命令の通り出かけます。しかし、かれらは祭司のところに着く前に病はいやされました。そしてサマリア人ひとりだけがイエスのもとに戻ってきて神の国を体感し賛美したと福音は伝えています。ほか 9 人のことを福音は詳しく伝えていないので確かなことはわかりませんが、イエスの命令どおりに祭司のところに行って体を見せて律法の定めどおりにもとの村や町に帰っていったのかもしれませんが、いやされてイエスのもとに戻るか、いやされてもとも生活に戻るか、「いやし」を中心に考えればどっちでもいいように思います。でもイエスはほかの 9 人にこだわります。

「清くされたのは十人ではなかったか。ほかの九人はどこにいるのか。この外国人のほかに、神を賛美するために戻って来た者はいないのか。」ルカ 7:17

「祭司のところへ行け」と命令したことがいわゆる「ひっかけ問題」だったらイエスは怒らずに機転のきいたことをいっていたと思います。かりに、わたしが入院しているとします。たぶん、わたしの願いは病気がなおることより退院して家に帰ることにひっくりかえっているでしょう。そして病気が治れば退院してなんの疑いもなくもとの生活、家に戻っていきます。それはわたしが、病が「いやさ」れる事と「救い」が別の事になった世界に生きているからです。

しかし福音は違います。「いやし」はただ病気が治ることではなく「救い」です。わたしたちもいやしをとおして救いを見ることができるよう。あのサマリア人のように神を賛美するために戻って来る者となれますように。
